

年頭所感



北海道開発局長

本田 幸一

明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

北海道開発局では累次の北海道総合開発計画の下で各種事業を実施しており、昨年は夕張シューパロダムや舞鶴遊水地が完成し、北海道横断自動車道根室線浦幌IC～白糠ICなどが開通しました。アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」においては、国立の民族共生公園（仮称）の基本計画の検討もスタートしました。

北海道総合開発計画は、現在、人口の急減と超高齢化、大規模災害の切迫等による時代潮流の変化等を踏まえ、平成28年度を初年度とする新たな計画を策定すべく手続きが進められています。

特に北海道がポテンシャルを有する分野として「食と観光」がありますが、北海道開発局では農水産物の輸出拡大等の取組のため、農地再編整備や漁港における屋根付き岸壁整備の事業を実施するとともに、北海道国際輸送プラットホームの取組などを行い、農水産物の供給力強化・高付加価値化に寄与しています。

また、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに寄与する事業を実施しており、新千歳空港では国際線ターミナル利用者の急増を受け、エプロン拡張や新たな誘導路を整備するなど、道路網や空港・港湾整備によ

る物流・人流ネットワークの充実を引き続き行って参ります。

一方、北海道は自然災害発生リスクが高い地域です。昨年も発達した低気圧による暴風雨や高波が発生し、浸水被害もありました。このため、治水対策を着実に実施するとともに、各種施設の耐震化、広域交通ネットワークの代替性・多重性の確保などハード・ソフト施策を組み合わせた防災・減災対策を進めて参ります。併せて社会資本ストックの老朽化に対して予防保全対策の実施など戦略的な維持管理を進めて参ります。

こうした中、北海道の建設業は、社会資本の整備・維持管理の担い手として重要な役割を果たしていますが、経営を取り巻く環境は依然厳しく、担い手の確保・育成にも引き続き取り組んでいく必要があることから、建設業の経営基盤の強化に向けた各種支援策等にきめ細かく取り組んで参ります。

本年も、これまで培ってきた経験や技術力、総合力を最大限に発揮して北海道が我が国全体の発展に貢献できるよう全力を尽くして参ります。

最後に、皆様の御理解・御協力を賜りますとともに、この一年の皆さまの御健康と益々の御活躍を御祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。